＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372900698
法人名	社会福祉法人　東泉会
事業所名	グループホーム氷川
訪問調査日	平成　20　年　3　月　31　日
評価確定日	平成　20　年　4　月　28　日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 4月8 日

【評価実施概要】

事業所番号	4372900698
法人名	社会福祉法人 東泉会
事業所名	グループホーム氷川
所在地 （電話番号）	八代市東陽町南762-1 （電 話）0965-65-3101

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺６－４１－５
訪問調査日	平成20年3月31日

【情報提供票より】（20年 3月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 6 人，非常勤 8 人，常勤換算 人	

（2）建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木 造り	
	1 階建て の 1 階 ～ 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	15000 18000 円		その他の経費（月額）	14,000 円
敷 金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（ 3月 30日現在）

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢 平均	85.33 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	安田医院 鏡歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

美しい自然の中で、母体の特別養護老人ホームに併設して開設され、6年を経過したところである。地域の実情を考えて、安い価格設定でのサービス提供を行っている。理念の一項目にあるように、残された力で暮らしの喜びと自信を与えるため、本人ができること、できそうなことにはなるべく手を出さず、「待つケア」をモットーに、さりげなく見守りながら、必要な時には温かく支える支援を行っている。職員のやさしい笑顔と心のこもったケアの中で、入居者は明るく楽しそうに暮らしておられ、生き生きとした表情が大変印象的である。項目ごとに簡潔にわかりやすくまとめられた個人別の介護マニュアルを作成しており、異動があっても慌てずにスムーズに対応できるよう工夫されている。母体施設と連携・協力しながらのいきとどいたケアが、家族の安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

昨年から年2回、グループホーム独自の通信を発行しており、個人の特集号の形式とし、本人や家族に大変喜ばれている。また、誰にでもわかりやすいように、排泄・食事・入浴等の項目ごとに簡潔にまとめられた個人ごとの介護マニュアルを作成した。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は、全職員で気づいたことを書き込み、話し合って作成されている。それぞれが1年を振り返り、初心に返って改めてよりよいケアを目指すきっかけとなるよい機会と捉えている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は2カ月に1回開催されており、行事の報告と反省・前回外部評価の結果報告と意見聴取等が主な議題となっている。子ども会とのふれあい会は他の地域にも広げたらどうかとか、学校との連携について学校にも話しにいったらどうかといった意見が出されている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の面会時には、その都度ホームでの様子を報告したり、家族からの意見や要望を聞いている。面会の少ない家族には、必要に応じ電話で連絡をとっている。また、法人の広報誌やGH通信により、家族にホームでの様子を知らせ、安心を与えている。運営推進会議への家族の参加や、苦情処理委員会・第三者委員会等、家族が意見や苦情を言う場はいくつか設定されているが、ほとんど苦情等は出されていない。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

散歩や買い物に出かける他、地域の子ども会とのふれあい会や中学生の職場体験の受け入れを行ったり、小学校の運動会に招かれて出かけたりしている。また、町の文化祭には「ひかわの里」として、絵手紙・壁掛け・書道等を出展している。さらに、婦人会や老人会からボランティアとして、定期的に草取りや年末の大掃除などに来ていただく交流が行われている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①個性の尊重とやさしさと②ゆったりと楽しく③残された力で暮らしの喜びと自信を　という誰にでもわかりやすい三項目の理念を掲げ、入所者がその人らしく暮らし続けることを力強く支援している。	○	実際には地域との連携を大切にしたサービスを実施しておられ、理念の中でも地域密着型サービスであること謳うことにより、さらにその意識付けが強くなされるものと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務室に掲示されており、毎朝のミーティングで斉唱し、共有している。理念はケアにおける職員の判断基準となっており、判断に迷うときは、常に理念に立ち返って行動している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の子ども会とのふれあい会を実施し、庭に植えられているリンゴ狩りやクリスマス会を行ったり、中学生の職場体験を受け入れている。また、小学校の運動会に招待されて出かけたり、町の文化祭には「ひかわの里」として、絵手紙・壁掛け・書道などを出展している。これらの多様な行事はケーブルテレビで放映され、参加した友人・知人が映し出されており、地域の方達の大きな喜びとなっている。さらに、婦人会・老人会からボランティアで草取りや、年末の大掃除等に定期的な来訪がある等、地域との多様な交流が行われている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、年に1回自己を振り返り、気づき、初心に返ることのことのできる良い機会ととらえている。前回の外部評価の結果は運営推進会議に報告し、意見を得て、できるところから改善に取り組んでいる。また、玄関の見やすい場所に外部評価結果を掲示しており、誰にでも見てもらって、よりよいケアにつなげようとする姿勢が伺われた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族・民生委員・市担当者をメンバーとして2カ月に1回開催して、行事の報告と反省を行ったり、外部評価の報告と改善点についての意見を求めたりしている。	○	会議を活かし、サービスの向上に繋げていくため、社協、消防署、警察などから地域の多様な職種の方、多様な活動をされている方に会議のメンバーとして参加してもらい、ホームの理解者・協力者を増やしていくことも、重要と思われる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市行政は運営推進会議のメンバーとして高齢者支援課職員が会議に参加しているが、その他の連携は今後の課題となっている。市町村合併により、担当者のいる本所が遠くなり、連携が取りにくい状況である。	○	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられ、市行政との連携は以前にも増して重要になっている。共に協力してよりよいホームを作るために、まずは本所・支所にパンフレットや広報誌を持ち込んで置いてもらったり、イベントに招待する等してホームの実態を理解してもらい、連携に繋げていかれることを期待する。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回発行される法人の広報誌「ひかわの里」にGHの活動状況を掲載し、家族に送付している。また、昨年から年2回発行しているGH独自の通信は、入居者個人ごとの「特集号」とし、写真をふんだんに取り入れ、楽しいコメントを添えて近況を報告し、本人にも家族にも大変喜ばれている。面会時の報告や、面会の少ない方には必要に応じ電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会の折りに、さりげなく意見や要望を聞き、運営推進委員として家族の参加を得、意見を出してもらっている。また、母体施設と合同で苦情解決委員会や第三者委員会を設置し、苦情を受け付けているが、地域性からか「お世話になっている」という意識が強く、苦情はほとんど出されていない。	○	法人全体としての家族会は設置されているが、GH独自での家族の集まりはないので、時にはGH独自で家族同士が話し合える場を設けるのも良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の混乱がないよう、異動は最小限にするよう運営者と協議し配慮されている。しかし、異動があった際はしっかり入居者に説明し、コミュニケーションを図ることで、混乱を少なくする努力をしており、場合によっては異動先に会いに行ったり来たりしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に1回、施設内勉強会を開催し、GH八代部会の勉強会にも多くの職員が参加している。また、機会を捉えて外部研修にも積極的に参加し、研修後は法人の全体会で研修報告を行って、全職員で内容を共有する体制ができている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会で、毎月定例会を行っており、外部講師を招いての勉強会や情報交換、交流会などを通じて質の向上を図っている。GHの相互訪問についても、検討中である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族と共に見学に来られ、十分説明し、話しあったうえで入所してもらっている。また、入居までの間にGHのイベントなどの機会を捉えて、雰囲気に馴染んでもらうよう努めている。ほとんどの入居者が母体施設のデイサービスやショートステイを利用しており、既に顔なじみの状態での入居となっている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔のことは知識と知恵の豊富な方が多く、「だご汁の麺は耳たぶくらいの柔らかさがちょうど良い」と、調理や食べ物についての知識や、歌・諺などを教えてもらっている。畑の手入れは、一緒に作業に参加する人や、見学しながらいろいろアドバイスをする人もあり、楽しく行われている。また、一緒に干し柿を作るなど、共に学んだり支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	隣接の母体施設で通所サービスや短期の利用経験者がほとんどであり、入所時には、家族やケアマネージャー・母体施設での担当者等から十分基本情報を収集している。センター方式を取り入れている最中であり、職歴や生活歴等をしっかり把握したうえで、日常の会話の中で思いや意向を把握するように努め、家族や知人からもさらに情報収集し、基本情報をより充実したものにするよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	基本情報に加え、本人・家族の意向を取り入れ、職員全員で検討し、介護計画を作成している。本人の思いと理念を重ね、できること・できないことを踏まえながら、やりたいことができるように考えて作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うとともに、状態の変化に応じてカンファレンスで計画を見直している。家族に意見を求めるが、「おまかせします」「このままでよございます」といった返答がほとんどという実情であり、見直し後に説明し、了承を得る形になっている。	○	介護計画の見直しは、家族を交えての話し合いへの働きかけの工夫が必要と思われる。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて、少人数での買い物等外出支援を行っている。また、理美容は、**もみじ棟**では美容師が訪問し低料金で手入れしてもらっており、**りんご棟0**では利用者の出費を抑えるため職員がカットを担当するなど、希望に応じての対応がみられた。	○	現在、併設の居宅支援事業所では家族介護教室を開催しているが、ホームとしても、毎日の経験から持つ認知症対応の知識や技術等を地域に還元し、ホームに対する理解・認知症に対する理解を広める活動の検討と実施が期待される。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を確認しているが、ほとんどホームの協力医療機関をかかりつけ医としており、常に連携を図っている。気軽に相談することができるため、日常の健康管理や異常の早期発見にも役立っており、往診等にも適宜対応してもらい、適切な医療受診が確保できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、ホームの対応には限界があるため、本人・家族・医療機関等と話し合い、基本的には特別養護老人ホームや医療機関への住み替えとしている。しかし、どうしても最期までホームで過ごしたいという希望がある場合には、対応について書面を取り交わし、主治医・看護師資格を持ったスタッフ・管理者・併設施設の看護師等でいつでも連絡が取れるよう連携を図り、対応することとしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人に知られたくないことは、さりげなく誰にも気づかれないように対応している。特に排泄の時など、誇りを傷つけないよう言葉かけに注意している。また、記録の持ち出し禁止や入居者のことについて口外しないことなど、注意を徹底している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を常に念頭に置き、本人ができることにはできるだけ手を出さず、「待つケア」をモットーに、一人ひとりのペースに合わせ、さりげなく見守りながら支援することを大事にしている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、母体施設の管理栄養士が献立を立て、食材を一括購入しているが、必ずしもその献立にこだわらず、畑の野菜とあわせて、希望を聞き食べたいものを作る工夫がある。職員は入居者と同じテーブルで同じものを、さりげなく見守りながら食していた。もやしのひげとりや、野菜をちぎったり味見をするなどの準備や、台拭きの後かたづけなど、できることを手伝い、協力して楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴を目安に、本人の希望を聞き、入浴している。季節によって、ゆず湯・菖蒲湯・晩白柚湯や入浴剤も活用し、入浴が嫌いな方も楽しんで入ってもらえる工夫も行われている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の基本情報を頭に入れ、それぞれのできること、できそうなことをうまく行動につなげるよう工夫している。例えば、茶碗洗いができる入居者に、1つだけ食器を残して洗い場に持っていってもらうことで、茶碗洗いに誘導したり、食後、自発的にテーブルを拭くよう、台拭きをさりげなく目につくところに置く等工夫されている。洗濯物たたみも、自分の役割として行う入居者や、自室を掃除し、他の入居者にも自室を掃除するよう促す入居者もみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は、散歩・日光浴・夕涼み等で、希望によって買い物に出かけたりしている。年に4～5回、法人のバスで花見や寺社等に遠出も行われている。家族同伴の外出や、ふるさと訪問・墓参り等もしたいと考えているが、今のところ家族の協力が得られにくい状況である。	○	家族同伴の外出は、現地集合にするなど家族が参加しやすい方法や、誘いかけの工夫をし、実現されることを期待する。また、ふるさと訪問や墓参りには、認知症やホーム利用に対する近所の目を気にする側面があるとのことであり、これを実現するためにも、認知症やホームへの理解を広げる地域への働きかけが必要と考えられる。今後の活動が期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関・通用口とも鍵をかけていない。夕方になると帰宅願望が出てくるが、出て行こうとする人にはさりげなく声をかけ、さりげなく見守り、同行している。万一気づき漏れがあっても、道路に出るまでに隣接ユニットや併設施設の職員の目にとまり、連携協力し、対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の母体施設との合同訓練を年2回、ホーム独自での避難訓練を年1回実施している。災害が予想される場合は、夜勤以外にも泊まり込むよう、当番を決め、緊急時に備えている。併設の母体施設との連携体制も整えられている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、母体施設の管理栄養士がたてており、栄養バランスの取れた食事を提供し、摂取量もチェックしている。水分量は、朝の牛乳・食事時のお茶・汁物・おやつの際の飲み物等、十分な摂取を促しているが、体調不良等で自室で過ごす時間の多い人への水分補給が不十分な場合があり、全職員に水分摂取の重要性について認識させ、留意するようにしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう	もみじ棟：玄関まわりに花が植えられ、芝生やベンチが備え付けられている。居間は家庭の部屋のつくりとなっており、テレビ・仏壇・こたつ・ソファ・テーブル等が置かれ、家庭的な雰囲気の中で、自由にくつろいでいた。居間と台所は少々狭く感じられた。りんご棟：外観は黒でシック。中庭に日本庭園がつくられ、風流な趣がある。リビングは広く、明るく清潔感に溢れており、楽しい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	もみじ棟ではベッド・タンス等の家具は備え付け、りんご棟ではそれぞれが使い慣れたものを持ち込んでいるが、どちらも入居者は自分や家族の写真や孫・ひ孫からの手紙、小物等を飾り、自分の部屋として整え使用している。入り口には部屋を間違えないよう、それぞれ違う花や飾りをつけたり、名札を2枚貼ったり出身町名を記載するなど工夫している。		

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム氷川
（ユニット名）	りんご
所在地（県・市町村名）	熊本県八代市東陽町南762－7
記入者名（管理者）	増住 一也
記入日	平成 20年 3月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時からの理念で、利用者、職員共に分かりやすい理念である。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時で斉唱し、日々の生活の中で理念を常に念頭に置く様に心がけている。 ケアプラン等において判断基準としている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族にはもちろんのこと、入居時に説明、又見学会等で見えるところに掲示し説明している。地域の方々には、併設の「ひかわの里広報誌」にGHのコーナーを設けて掲載している。また、子供会とのふれあい会を通じて、子供さんや両親の世代にも理解してもらえるように取り組んでいるが、そのほかの地域の皆さんには周知が行き届いていない。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	併設施設内の為、隣近所の方は特養入居者もしくはデイサービス利用者になるが、苑庭散歩時立ち寄って会話・お茶を飲まれたりされてます。合同行事時、立ち寄っていただいています。	○	併設の入所者やデイサービス利用の方だけでなく、近隣の方々と日常的につきあいできるよう取り組みを考えたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設全体的に地域と連携がとれているため、地域活動など参加声かけしてもらって交流できている。又、近所の子供たちと交流会をしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の居宅介護支援事業所で受託した、家族介護者教室に協力したり、近隣の小・中学校のワークキャンプ、職場体験の受け入れを法人として行っている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の評価結果をふまえて、運営推進会議での意見を頂きながら、できる所から取り組んでいる。	○	昨年度指摘を頂いた、グループホーム独自のお便りについては、年2回のグループホーム通信という形で、実行している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	子供会の皆さんとのふれあい会では早速実行に移している。	○	推進委員の拡充を考え、いろいろな職種の方からの意見を頂いてよりいっそうの地域の方との関わりをふ深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者と時々に応じて連絡を取っているが、積極的に行き来するには至っていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員のみ理解できているが、説明するには今一度の学習が必要である。全職員の教育には至っていない。	○	今後機会を見つけて勉強会の中で取り上げていく必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングや、併設の施設と合同で設置している虐待防止委員会で話し合い、全職員に議事録を回覧している。	○	回覧のみならず、上記と同様機会を見つけて勉強会の中で取り上げていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、その他疑問点や、不安な点は面会時などに聞き出すよう、さりげなく話をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者と同じ視点で見るようにし、さりげなく聞き出すようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必要に応じて面会時に報告したり、面会が少ない方は電話で報告している。 また年二回のGH通信で写真を添えて、近況を報告している。 預かり金については、面会時などにレシートと預かり帳を開示して確認して頂いている。	○	どうしても面会が少ない方については電話での確認しかできず、できれば自宅訪問し報告したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から、面会時などにさりげなく話を持ち出し、聞き出すようにしている。 苦情受け付け担当者を設置し苦情の受付を行っており、現場のみでの対応が困難な場合は併設施設と合同で設置の苦情解決委員会で対応を協議している。また、第三者委員会を設け、そちらでも苦情を受け付けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や、併設施設との全体会議等で提案や意見を聞き、必要に応じて反映させている。 また、皆の前で意見を述べにくい場合は、主任や所属長が意見を聞き、上記の会議や、法人の各部署代表者会議の中で諮っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事やイベント、入居者の状態に合わせ、時には併設施設との連携をはかりながら極力きめ細かに対応できるよう、配慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設のため、人事の停滞を招かないよう定期の異動はやむを得ない部分もあるが、極力利用者への影響を最小限にとどめるよう、運営者と協議して配慮している。 また、離職をなるべる少なくするため、各種社会保険を完備し、勤務時間についても配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上司、先輩によるOJTに加え、隔月の勉強会を開催し、GH八代部会の勉強会、また機会を捉えて外部の研修会など参加している。 外部研修の際は、内容を全職員で共有するため、全体会などで研修発表を行っている。	○	職員によってはレベルが違うため、まだまだ勉強が必要でありGHスタッフ会議に勉強会を取り入れるようにしていく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代グループホーム部会において定期的に勉強会や交流会等参加している。 相互訪問も、まだ実現には至ってないが次年度の課題として検討中である。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ会議や併設施設との全体会議の中で不満を出し合い、また、機会を捉えて食事会、飲み会などでストレスの軽減に努めている。 また、GH部会への参加は、勉強になると同時にいいストレス発散の場となっていると思う。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々人のカウンセリングや、勤務状況に応じて役割分担を割り振り、それぞれが、責任を持って仕事に取り組めるよう、指導と助言を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅介護支援事業所の担当者と連絡を取りながら困りごとや要望などの話を聞き、（できれば）家族と一緒にホームを見学して頂き、利用者の方の様子や理念など理解してもらい、心身の状況の把握や「想い」を聞き出すようつとめている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記23と重複するが、居宅の担当者と連携し自宅を訪問し困っていることや要望を伺ったり、必要に応じてご足労願い、家族としての「想い」を聞き出すようつとめている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設スタッフと連絡を取りご本人やご家族の今、もっとも困っておられる事を把握するとともに、他のサービス機関の情報の提供も含めて連携し対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みから、入居までの間にイベントの時など機会を捉えて家族共々ご足労願い入居の方々と接して頂き、雰囲気を感じて頂いている。 併設施設利用の方が多く、すでに顔なじみになっておられる方も多い。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リビング前の菜園の手入れなどでは、一緒に作業されたり、されない方もデッキから、声をかけアドバイスしておられる。 その他の日常生活の中でも、いろいろ教えられる場面が多く見られる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に数回の行事を家族に参加を呼びかけている。 また、利用者家族の方にも運営委推進会議の委員に就いて頂き家族の立場からの意見を伺っている。	○	今後出来れば、バスハイクや買い物会なども家族も含めて計画できればと思っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの家族とご本人の関係を把握し、出来ることを仲介するよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のため、合同行事などでなじみの方と交流が出来るよう「場」づくりを心がけているが、全員ではない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	いつも皆さんでなかよく、楽しく暮らしましょうと声かけしながら、相性が悪い方との双方と関わり合い支え会える様に努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居宅介護支援事業所の担当者へ引き継ぎ、その後の生活場所への提供の相談をし将来への不安を伺い、安心して生活できるよう支援できることをご家族に説明している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職歴や生活歴を踏まえ、スタッフ全員が利用者一人一人に目を向け、何気ない会話の中や、さりげなくハナシを持ち出して意向の把握につとめ、また家族や知人より情報収集に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	差し支えない範囲で、出来るだけ主に家族から聞き出し、ご本人との話と併せて情報の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日を通して、ご本人とっての生活リズム、暮らしぶりについて把握するようつとめている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向や想いを受け止め、ともに作る介護計画との認識を持っている。 カンファレンスや毎日のミーティングの結果をプランに生かしているが、モニタリングは不十分。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に伴い計画の変更の必要があると判断したときは、実情に合わせて見直している。しかし、その際の担当者会議はその場にいたスタッフだけで、家族は事後承諾の場合が多い。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については、変化や気づきを中心に記録するようにして後々記録を振り返るときに分かり易いようにしている。スタッフは勤務に入る前に記録や申し送りノートに目を通すようにしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態や希望、家族の意向に応じてホームとして出来ないことも併設施設と連携して出来るだけ、希望や意向に沿うようにしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の子供会の協力を得て、年二回のふれあい会を行っている。 町の文化祭には、「ひかわの里」として、出展させてもらっている。 小学校は体育祭や音楽会などイベントの都度、「ご招待」して頂いたり、「ご案内」したりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所の担当者、他のサービス事業者と必要に応じて連絡をとるようにはしているが、現在の所そのような支援をした例はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡を取っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居に至るまでのいきさつをふまえ本人、家族の意向を確認し尊重している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	気軽に相談できる医療機関を確保しており、必要に応じて専門医や病院を紹介してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師、かかりつけ医療機関の主治医、看護スタッフ等と連携をはかり日常の健康管理や異常の早期発見に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関へ積極的に情報を提供し、情報交換に努めている。 退院時にも、家族、病院関係者と話し合い、退院後の生活支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向をふまえ、医療機関、家族の三者で、ホームとしての限界を示して話し合い、対応を取り決め書面を取り交わすようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	いつでも連絡が取れる主治医、併設施設の看護師、看護師免許を持ったスタッフ、管理者で連携をはかっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居宅支援事業所の担当者、その他関係機関、家族なども交え、主治医の意見も聞きながら情報交換をしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊敬の念を忘れず、一人ひとりの違いに応じた対応を心がけてはいるが、ときとして全体を当たり障りなく対応しているときがある。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	訴えに傾聴した上で生活歴などを踏まえ、その奥にあるものや真意について洞察し、対応するよう心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベントの時など職員のペースにあわせないと仕事が回らない部分は確かにあるが、出来るだけ「その人」のペースにあわせて寄り添いながら、さりげなく介護するよう心がけている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る服選びは、自分で出来る方は自分でしてもらい、そうでない方も好みに配慮して希望を聞きながら行っている。	○	そうはいいながらも、つい汚れが目立ちにくいもの、洗濯しやすいものを勧めがちであるので、本人の気持ちになる事をもっと考えたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分（もやしのヒゲ取りなど）については一緒にして頂いている。難しい方も、味を見て頂くことで、一緒に参加した気分を少しでも感じて頂いている。 後片付けは自分たちで声を掛け合いながら、されるので危ない所をさりげなく手伝っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好については家族より情報を頂いたり、日々の会話の中で把握し、極力制限がないよう楽しんで頂くようにしている。今のところ飲酒・喫煙される方はいない。 その他おやつ等については、主治医の指示や管理栄養士のアドバイスがない限り、体調をみながら希望に添うようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し頃合いをみて、さりげなく誘導・介助している。 また、はっきりした尿意になる前のサインにも心を配り、他者の目にも配慮した声かけを心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	だいたい一日おきくらいの入浴を目安として、季節や希望・健康状態にあわせて入浴して頂いている。 また、季節の折々に応じてゆず湯や菖蒲湯など、何もないような時季には入浴剤も活用してアクセントをつけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動に加え、冬場は就寝前に早めに暖房や電気毛布を入れ部屋と布団を暖めている。必要に応じて湯たんぽ等使用したり、寝付けない方は排泄を疑いチェック表に目を通した上で声をかけている。 季節に応じて温かい飲み物、冷たい飲み物。就寝前のゆったりした時間を心がけている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴をふまえ「できること」「できそうなこと」を見極めてして頂いている。 たとえば食事の後、さりげなく台ふきを目に付く所に置いておくと自分たちで声をかけながら台ふきされる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方については、自分で管理して頂いている。 他の方についても、状態に応じて少額づつでも支払って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地理的な要件もあり、バスハイク等のほかは、苑庭での散歩や日向ぼっこ、夕涼みにとどまっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じてバスハイクや新年の初詣等行っている。 また、気の合う少人数での外出も必要に応じて行っている。	○	家族の協力を得ながら、ふるさと訪問や墓参りなどもできればと思う。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用されるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客者には笑顔で出迎え、入居者のエピソード伝えるようにしている。 その時々の様子でリビングや居室、予備室に案内している。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設との合同で身体拘束廃止委員会を設置し、検討した内容を全スタッフに回覧している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や通用口は昼間は鍵をかけていない。離苑リスクのある方についてはドアの開閉音で察知するように心がけ、さりげなく同行し声をかけている。万一気づき漏れがあっても隣接するユニットや、併設の施設と連携し協力の下対応している。	○	入居者本人の思いをくみ取りスタッフと思いを共有していくことを、さらに深めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面式キッチンで調理中も目が届きやすい。また、持ち場を離れるときは他スタッフに声をかけ、常に誰かの目が届くようにしている。 夜間は、特にリスクのある方は定時の巡視以外にもコマメに巡視している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物は定位置に収納。 薬品類についても、それぞれに収納場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し、都度都度当日のミーティングの中で検討している。 重大な事故については、さらに毎月のスタッフ会議の中や、緊急会議でも検討している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼して、すべての職員が受講できるよう数回に分けて救急救命講習を年一回行っている。 また、併設施設との二月に一回の勉強会の中でも、NSを講師に勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の避難訓練を行っている。 緊急連絡網を整備していざというときは、非番の職員も出勤して避難誘導等に当たるよう取り決めている。 また、風水害が予測されるときは、当番を決め通常の夜勤者以外にも泊まり込み、備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	常に家族と連絡を取り、「そのひとらしさ」とリスクのバランスを考え対応を相談しながら対応している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェック、食事量チェック、排泄チェック、常に様子を観察し、いつもと違う様子を見つけたときは皆で情報を共有しながら必要に応じて医療機関に連絡を取っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして、夜勤帯などにもを通すようにしている。また、疑問点があれば看護婦、主治医に確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ下剤を使用せずすむよう、食事に繊維の多いものを取り入れ、冷たい牛乳、特に排便がない翌日の朝一に、きな粉牛乳を飲んでもらうようにしている。	○	朝一のきな粉牛乳を飲んでもらうようにしてから、便秘がかなり改善見られる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	酸化水やお茶を使用してうがいしてもらっている。また、自分でできない方はレベルに応じて介助している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士がたてた献立をもとに、季節の食材や菜園で採れた食材、入居者の好みに応じてアレンジしている。 摂取量はチェック表を作成している。また、体重も定期的に測定している。	○	一人ひとりの、水分摂取量を確実に把握する必要があるため、職員の知識を高め学習していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	対策マニュアルを作成し実行している。 インフルエンザについては家族の理解を得て、スタッフ共々予防接種をしている。 また、感染が疑われるような嘔吐や下痢等が発生したときに備えて、パニックにならないよう大きめのビニール袋、使い捨ての手袋等を処理セットとして用意している。	○	開設当時から消毒殺菌のため、自亜塩酸ナトリウム系の電解酸性水を使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	上記マニュアルにより、手洗いとうがいを徹底し、食材は賞味期限・消費期限を常に確認している。 調理器具は一日の業務終了時に消毒している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口の門扉は昼間は開放している。 玄関前や苑庭には季節の花を植え、ベンチや椅子を置いている。 季候のいい時季には、苑庭や玄関先で日光浴、夕涼みをしながら来客の方などに声をかけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンと一体となったリビングで、食事の用意をしている気配（音や匂い等）を感じながら過ごしてもらっている。 リビングから一望の菜園や、その向こうの大自然を見ながら、季節感を味わってもらっていると思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった方同士で話がしやすいよう、廊下にベンチをおいている。また、多目的に使える部屋があり、必要に応じて利用してもらっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの品の持ち込みは少ないが、ご家族の写真や、本人の好きな花等を飾り「その人の場所」づくりにつとめている	○	出来れば入所時に説明し、必要に応じてご本人と一緒に引き取りに出向ければと思っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムのみに頼ることなく、起床時、掃除の際等適宜行っている 空調については気候や、体感温度に配慮し入居者の様子を見ながら適宜行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にや浴室、トイレには手すりを設置し、廊下の途中にベンチをおき適宜休憩できるよう配慮している。 浴室も手摺り以外は、ごくふつうの家庭で使われるものを使用し、できるだけ「ホーム」を意識せずすむような造りとなっている。		現状を維持できるように日常生活の中でのさりげない訓練をできれば、と思っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレにはわかりやすく、低い視線からでも見やすいように掲示している。 迷われるときには、他者の視線にも配慮しながらさりげなく声をかけて誘導している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外の風が気持ちいい季節には、苑庭で外気浴したり散歩できるよう整備している。 また、リビングから一望できる菜園があり、入居者の方と一緒に作業したり、実際に参加されない方も室内やテラスから見学したり、声をかけあって知恵を借りたりして雰囲気だけでも楽しんでもらっている。		現状が維持できるよう継続したい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・恵まれた自然環境の中で、顔なじみの地域住民の方々に囲まれている
・併設の特養、デイサービス、２ユニットのＧＨの連携により静かで落ち着いた中でも賑やかさを演出できている
・テレビをつければケーブルテレビで、地域の行事等常に放送されていて、その中にホームの行事や併設施設との行事が番組として組み込まれている。

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム　氷川
（ユニット名）	もみじ
所在地 （県・市町村名）	熊本県八代市東陽町南762－7
記入者名 （管理者）	池田　涼子
記入日	平成　　年　　月　　日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時からの理念で、利用者、職員共に分かりやすい理念である。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時で斉唱し、日々の生活の中で理念を常に念頭に置く様に心がけている。 ケアプラン等において判断基準としている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族にはもちろんのこと、入居時に説明、又見学会等で見えるところに掲示し説明している。地域の方々には、併設の「ひかわの里広報誌」にGHのコーナーを設けて掲載している。また、子供会とのふれあい会を通じて、子供さんや両親の世代にも理解してもらえるように取り組んでいる。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	併設施設内の為隣近所の方は、特養入居者になるが、苑庭散歩時立ち寄って会話・お茶を飲まれたりされてます。合同行事時、立ち寄っていただいています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設全体的に地域と連携がとれているため、地域活動など参加声かけしてもらって交流できている。又、近所の子供たちと交流会をしている。	○	運営推進会議で、実施報告後の意見で、これからも子供会の皆さんと交流会が出来ないか検討中である

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
協力	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の居宅で受託した、家庭介護者教室に、参加協力したり、近隣の小中学校のワークキャンプ職場体験の受け入れを法人で行っている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の、評価結果をふまえて、運営推進会議等で意見を頂きながら出来るところから取り組んでいます。	○	出来ることからの、見直しをおこなつている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、地域との連携や行事への意見を頂き、子供さんとのふれあい会を、早急に実施いたしたところです。	○	推進委員の拡大を考え、いろんな職種の方からの意見を頂き、地域とのかかわりを深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方とは、時に情報交換しているが、行政の方とは会議等で、助言を頂くくらいで関係づくりに至っていない。	○	併設との合同の広報誌を市役所支所に置かせていただいてます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、研修には参加したが、全職員の教育は出来ていない。	○	今後、徐々に学んで行きたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティング時や、併設で合同設置している虐待防止委員会で話し合い、必要に応じて、勉強会で取り上げています。。	○	職員間で日々のケアが虐待行為に抵触いないように話し合っていく

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて十分に説明し同意していただいてます。不安、疑問点については面会時に、さりげなく聞き出す努力し、理解・納得を図っている。	○	長期入居者には、家族、利用者に頃を見て、説明をしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で、入居者の言動から、思いを掌握する努力をしている。	○	馴染みの入居者同士の和の中に入り、思いや意見を掌握することに努める
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回のGH通信にて入居者の暮らしぶりを報告又、必要に応じて面会時に報告したり、預かり帳の確認印を頂いてます。職員の異動等については定期的には報告できてない。	○	面会の少ない方には電話での報告しか出来ず、自宅訪問し報告を実施していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	室内に第三者相談案内ポスターを貼付している。また運営推進委員の中に家族の方にお願いし、その中でも他家族の方の声を聞かせていただいています。	○	家族会の話し合いの場を作って行く必要がある
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や併設施設の全体会義等で、提案や意見を聞き、必要に応じて反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者状況や行事に対応した職員を確保しており、又、職員の急病等への対応できる勤務体制をとっている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の為、定期異動時、出来るだけ入居者の影響をおさえるため、日頃より、入居者と職員のかかわりを行事等でするように努めている。又、離職をなるべる少なくするため、各種社会保険を完備し、勤務時間についても配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会、カンファレンスを行い、施設外部研修も皆が参加し全職員が共有する為、全体会での研修報告（発表）にて学んでいる	○	職員によってはレベルが違うため、まだまだ勉強が必要でありGHスタッフ会議に勉強会を取り入れるようにしていく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会との定期勉強会に参加して、他GH職員との交流を深めている。相互訪問は、検討されているが、実現に至っていない。	○	八代部会でGH間の交換研修の実践について検討する
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎日のミーティングやスタッフ会議で意見を出しやすい雰囲気作りに努め、意見の出し合いをしている。職員の休憩出来る場所を短時間ではあるが確保できている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況や研修会参加状況を把握するようにしている。また、内容に応じての研修会参加や各資格取得に向け、学習と勧奨を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に、ケアマネ・家族より情報収集し、本人との関わりを多く持ち本人の思い、心身の状態について把握し、よい関係作りに努めている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを理解し、ご家族との会話を多く持つ機会を作り、信頼関係を築いていけるように努めている		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設スタッフと連携を取り、本人やご家族の、今、最も困っておられる事と、その緊急性について把握すると共に、他のサービス機関の情報も提供しながら適切な対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、見学され、本人さんとご家族と十分に話し合い、自宅と持続した生活が送れるように努めています。また、併設からの、利用がおおく、顔なじみになっておられる。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の、会話の中で、いろんな事を学び教えられることが多く、「理念」のごとく過ごしているようですが、まだまだ十分ではないようです。	○	入居者一人ひとりにの思いを聞きながら、喜怒哀楽を共にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族にも、関わっていただき、共に本人さんを支えていただく様に、関係作りが必要である。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時には、家族になり、怒られたり、慰めたりして接して、ご家族とのよりよい関係につなげるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の為、馴染みの方との会話を出来るように場所作りを心がけているが、全員ではない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	いつも皆さんでなかよく、楽しく暮らしましょうと声かけしながら、相性が悪い方との双方と関わり合い支え会えるる様に努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した場合であっても、その後の生活場所への提供の相談をしたり、将来への不安を伺い、安心して生活できるよう支援できることをご家族に説明している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族や担当ケアマネージャーから情報収集し、日々の会話の中で思いや意向を把握するようし、出来るだけ本人の気持ちに添うように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々、入居者と過ごす中で、話を伺ったり、家族の面会時に話をしたりして把握する様に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日を通して、本人に取っての生活のリズム、暮らしぶりについて把握し、いくつかの記録にて把握するように努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を取り入れるように心がけているが、介護スタッフ主体の介護計画になり、面会時報告になっている。	○	時間が許せば、家族とともに、相談しながら作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時は、カンファレンスにて検討、また本人、家族、必要関係者と話し合いしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日課やそれに近いものを、チェック形式にして変化や気づきを記録し、職員の申し送りノートを、勤務前に目を通して業務にはいるようにしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設が、ほとんどの多機能サービスを提供いており、ホームとしては本人や家族の要望に応じて、外出や地域の人々とのかかわりで支援しています。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の子供会の協力を得て、年2回ふれあい会を行っている。町の文化祭にはひかわの里として、出展させてもらっている。また、小学校は、イベントの都度「ご案内」を頂いたり「ご案内」をしたりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所の担当者、他のサービス事業者と必要に応じて連携しているが、現在そのような支援をした例はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡を取っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を尊重している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	気軽に相談できる医療機関を確保しており、必要に応じて、専門医や病院を紹介してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師、かかりつけ医療機関の主治医、看護スタッフ等との連携を図り、日常の健康管理や異常の早期発見に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、医療機関へ積極的に情報提供し情報交換に努めている。退院時にも、家族、病院関係で話し合い退院後の生活支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向をふまえ、医療機関、家族の三者でホームとしての限界を示して話し合い、対応を取り決め書面を取り交わすようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	いつでも連絡が取れる主治医、看護資格を持ったスタッフ、管理者、併設の看護師で連携を図っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居宅支援事業所の担当者、その他関係機関、家族なども交え、主治医の意見を聞きながら情報交換している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である事を忘れずに、一人ひとりに応じた対応を心がけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の意思表示、希望を取り入れ、自己決定してもらえるような声かけ対応しているが十分ではない。意図的に思いを引き出す事が出来るように支援していきたい。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「理念」を念頭に置き、待つケアをモットーに、手を出しすぎに注意し一人ひとりのペースに合わせ、寄り添いながらさりげなく支援するように努めている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	なるべく本人に選んでいただき、おしゃれをされるように支援している。理容については、男性は、職員を希望されるので、カットしているが、女性の方は訪問の美容室の方が、本人の希望を聞き、会話を楽しみながらされてますが望む店とはなってない。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活する中で、出来ること、出来ないことを把握し、さりげなく声かけし、食材を見て、触れて、昔の料理の話題を談話しながら、職員と一緒にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は、事前に家族より情報を得たり、生活する中で、入居者と会話しながら把握し,体調を見ながら希望に添うようにしている。 酒、煙草については、場所、時間帯を取り決め、スタッフの目の届く範囲でしていただくようにしているが、今のところおられない。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの、排泄パターンを把握し排泄チェック表を確認しながらさりげなく声かけしている。また、本人の行動、言動をサインとして速やかに失敗なく排泄できる様に支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴確認表を確認して、本人の希望を聞き実施している。また、入浴を嫌がられる方には、スタッフで相談しながら実施しているが本人の満足されているのか考えさせられます。季節行事には、ユズ湯、菖蒲湯、晩白柚湯等で楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	過去の生活歴をふまえて、一日のリズムを、昼食後時間を考慮しながら休憩し、夜間は早めに自室を暖めて入眠前に暖かい飲み物を提供し、おしゃべりしたり、時々の状況に併せた対応をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の片づけをしたり、近所の子供達とふれあい会で一緒に食事をしたり遊んだり、また、併設合同で行事参加して楽しまれています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い、管理できる方は、管理持続できるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や買い物は状態や希望に添って出かけているが、ほとんどの方が、園庭散歩、日光浴、夕涼みでおわっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を聞き、年に数回、バスハイクを実施している。また、少人数の買い物会、バスハイクもしているが家族の同行は今のところない。	○	今後、家族との一緒の外出を検討していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	別に制限しておらず、入居者の希望により、スタッフが援助しながら手紙を出したり、電話したりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客者の希望また、入居者の状況に応じて、談話室、廊下ソファー、居室を案内し、お茶等を準備してゆっくりくつろいでいただけるようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束廃止委員会を設置し、主任会議で検討し全スタッフに回覧している。また、全スタッフ常に、危険防止とはいえ、安易に拘束を行わないように心がけて実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外はかぎはかけていない為、自由に外出されることがあり、声かけしさりげなく見守り同行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士で声かけして常に誰かの目で見守り、すぐ対応出来る位置を確保している。夜間でも時間毎の巡視以外に入居者の状況に合わせて巡視している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は保管場所を定位置に決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	併設での勉強会また、ヒヤリハット等を活用し全職員で回覧し、意見を聞き、スタッフ会議にて検討会している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを、いっでも見える所に貼り、全職員が確認するようにしている。また、併設施設と合同で救命救急講習を年1回、勉強会2ヶ月1回の中で看護師を講師に勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の避難訓練を行っている。 緊急連絡網を整備して、災害時、非番の職員も出て避難訓練に当たる様に取り決めている。また、風、水害が予測時、当番制にて、夜間泊まり込みすることになっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクと、その人らしい暮らしとのギャップとの関係についてご家族と連絡相談しながら対応している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の、バイタルチェックを行い、また食事摂取や言動など普段と違う様子がないか観察し、記録に残している。様子が違うとき、職員同士で情報を共有し、観察を行い、必要に応じて医療機関に連絡し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用表をファイルし、全職員が確認把握できるようにしている。服薬管理箱に、日付別に分けてあり、のみ忘れがないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて状況確認し、散歩、水分摂取等を促している。又、食事に繊維質の多い物を多用し、一人ひとりに合わせて牛乳、ココア、黄粉牛乳を飲まれてます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔洗浄は週間になっいているが、完全でない時は介助している。定期の洗浄消毒も行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の、管理栄養士が作成した献立を基に、季節の食材や入居者の好みに応じてアレンジしている。量についても、チェック表にて把握し、定期的に体重測定をしている。	○	一人ひとりの、水分摂取量を確実に把握する必要があるため、職員の知識を高め学習していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	対応マニュアル作成し実行している。また、感染症が疑われる様な症状の方に対しての、処理セットを用意している。	○	開設当時から、消毒殺菌のため、自亜鉛素酸系の電解酸性水を使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	上記マニュアルにより、手洗い、うがいを徹底し、食材は賞味、消費期限を確認している。調理用具は、一日の業務終了時に消毒している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、季節の花を植え、中には観葉植物、花瓶には季節の花を飾るようにしている。又、玄関先にベンチ、イスを用意している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と一体の居間にて、苑庭の風景を見ながら季節感を味わい、時には季節の花を摘んで飾ったり、すぐそばの台所では、野菜を切る音、美味しい匂いでの会話の中で心地よく過ごされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下で自由に過ごせるようにソファーを設置し、各居室に気の合う物同士で過ごせるように、イスを用意している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは最初から設置してあるため、本人や家族と相談しながら使い慣れた物を持ち込んでもらっている。	○	出来れば入所前後に自宅に出向き、一緒に選んで持ち込めればと考えています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節を問わず起床時には、全居室の、昼夕には全廊下にて換気し、外気との温度差に注意しながら換気している。また、こまめに温度調整しながら、冷暖房の調整を行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所には手すりが取り付けてあり、また、廊下にソファーが置いてあり散歩しながらの一息出来るようにしてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人に合った、さりげない声かけにて、混乱や失敗を防ぐ努力しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には芝生が一面にあり、天気の良い日には、日光浴、談話しながらお茶会をし、散歩しながら園庭の草取り、畑で野菜の収穫したりしている。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・恵まれた自然環境の中で、顔なじみの地域住民の方々に囲まれている
・併設の特養、デイサービス、２ユニットのＧＨの連携により静かで落ち着いた中でも賑やかさを演出できている
・テレビをつければケーブルテレビで、地域の行事等常に放送されていて、その中にホームの行事や併設施設との行事が番組として組み込まれている。